

開催報告 第 15 回シンポジウム (5 月 28 日開催)

情報システム学会 研究普及委員長 中鉢直宏

『ウェルビーイングを実現するこれからの人間中心の情報システム~多様な人びとの持続可能な幸せのために~』をテーマに情報システム学会第 15 回シンポジウムが専修大学神田キャンパス 5 号館にて開催されました。去年は遠隔開催でしたので、今年は 2 年ぶりの対面開催となりました。久しぶりの対面ということもあり、当日 9 名のキャンセルなども影響して、参加人数 28 人（正会員 21 名、非会員 7 名）と去年のオンライン開催（参加者 45 名）よりも参加者は減少となりましたが、素晴らしい講演と活発な議論によりとても本学会にとって充実したシンポジウムとなりました。

講演は、株式会社 New Stories 代表、一般社団法人コード・フォー・ジャパン理事の太田直樹氏と株式会社ブロード代表の嬉野恵悟氏にご登壇いただきました。

太田直樹氏には、「デジタルとウェルビーイング」という表題で、デジタルが、企業の経営にとどまらず、政治や社会の中で重要なテーマになる時代になる今、2000 年代に入ってから、デジタルを活用して実装できるようになってきたウェルビーイングについて、岸田政権が打ち出したデジタル田園都市国家構想などウェルビーイングを実現するデジタル活用について、実例を交えてお話しして頂きました。

去年の浦昭二記念賞を受賞したブロード社の代表としてお招きした嬉野恵悟氏には、「運用パッケージツールの過去と未来」という表題で、35 年間にわたる様々な経験とそのお考えを踏まえ、ハードウェア、メーカー及びプラットフォームで変化し続けてきた環境に伴った運用パッケージの現状と、これからの展望についてお話しして頂きました。

開催後のアンケートでは、「講演の内容に興味を持ってましたか」という質問には、回答者 9 名中 8 名がポジティブな回答を得ることができました。参加の目的などを聞く質問には、「講演内容に興味があった」「最新トレンドを知りたかった」「ウェルビーイングの視点などの最近の動向が知りたかった。」などテーマに興味を持って参加したというコメントが多く見ることができました。シンポジウムへの意見に関する質問には、質疑応答の時間に関するもの、パネルディスカッションの要望、企業に勤務する会員が参加しやすいテーマなどがありました。アンケート全体としては、おおむね好評な結果を得ることが出来ました。